



中村俊定文庫  
文庫 18  
82



延寶五

肩入奉公

季吟十句  
卓取



延宝三年乃友の此より  
 新方れ用の変りては  
 のりきふよあまよこあ  
 つれこのあまらふ桃徳を  
 仕あまひそと業とせんと  
 心ひち町とあこ花手ると  
 ち物と求まらうてんれそ  
 甘んときぬ事れと多し  
 いこやあまらり尋ひりて  
 回まりれとあやめに初ん  
 のるさうおんまこらう  
 くこいうせんときひるふ

延宝

かゝる人乃人れいふるやうの  
物いふていふ人母志うと  
まゝめられぬ事といつき京  
乃誰れもいふまゝに事ぬ  
先よりとつうもれい正宝  
四日人日の此点た事りぬ  
まゝと母是いふ記統者古也  
さゝい跡正成大坂つういせ  
そ志多下りまゝにせ播列  
伎列のすれあを<sup>正</sup>り  
志とめつうむ月さう  
まのるり<sup>正</sup>揃と面  
白とふおひ柄<sup>正</sup>並と

見一うとも國本へ一向ふ  
付く<sup>正</sup>計是成<sup>正</sup>東とく  
も益ふ一<sup>正</sup>初<sup>正</sup>子の<sup>正</sup>おな  
り見を合<sup>正</sup>守の<sup>正</sup>福とも  
せよとせめ<sup>正</sup>れ是を<sup>正</sup>正<sup>正</sup>ま<sup>正</sup>屋  
りまゝ事<sup>正</sup>り<sup>正</sup>な<sup>正</sup>あ<sup>正</sup>ぬ<sup>正</sup>あ  
も人<sup>正</sup>り<sup>正</sup>つ<sup>正</sup>り<sup>正</sup>ぬ<sup>正</sup>れ<sup>正</sup>た<sup>正</sup>え  
長く<sup>正</sup>在<sup>正</sup>京<sup>正</sup>き<sup>正</sup>は<sup>正</sup>先  
も世の人<sup>正</sup>乃<sup>正</sup>府<sup>正</sup>入<sup>正</sup>在<sup>正</sup>云  
とたも<sup>正</sup>ひ<sup>正</sup>ま<sup>正</sup>を<sup>正</sup>と<sup>正</sup>や<sup>正</sup>う<sup>正</sup>く  
怒<sup>正</sup>号<sup>正</sup>と<sup>正</sup>あ<sup>正</sup>ぬ<sup>正</sup>

延宝五年三月祥日  
肥後隈平住  
三系

正上  
正

第一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	追加
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
鳥者	西武	梅盛	玖也	令往	急翔	乞誰	嵐及	仁口	一雪	貞恕

肩入奉云 季吟子句点社

才一

地まうく木石の花れ勢季吟

砂る雪うくくゆる白盤 正立

各句点の字籍うて字四

は花町冬のは方も去明て時去

却は花町所お翻て字よくん

下つ久も 後を扶持米吟

美盤ソロの上はまうる氣徳ソロふ立

あ〜く〜るめむつ〜

河城用ひくくやれゆ史去

戸むらやゆやゆの秋の風吟

友城まのふれ勢起の麻立

秋のめづる苗刈りつ後結て去

かん

きのよまよふ苗刈りつ後の有り  
稲葉そよびて秋風の吹  
三句よ海ゆわゆるまよふ  
のわりの時分は目まゆりのかん

志まろく河のく後見れば吟

山寺のひとつありある谷に立

樹神お音いふ川玉打去

意

木神お音いふ川玉打去  
一川は同じき

せつとつ時ふたふれ撲る時

嵐の地ふりよふ浦風也たり立

福もや昔の内裏治まうり去

楽減つて我無存ふつと吟

あむもおも思まの阿れいん立

無存あつて思まの阿れいん

去の并木やい并東の物去

あむもよにあつて付 夷と都よ  
よむ時の東と去り付てよ無存

腰下の櫛とてたりつ海吹

登お坂をへきて宿ををつく立

首途よりつれを河の流れて去

旅神守るつてさうさう

あふふ屋いりるさうりやの声吟

そ逢ぎさうりやとあつて

朝をこゆる隣のとまゆ人立

あつてのこゆる

ところへりり戸とおげや町去

町あつて

ぬめりるあつてよつ物や吟

あやあつあつあつれあひ立  
あやあつあつあつれあひ立

同じく成りてあひあつあつあひ

出あもてられあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

あつあつあつあつあひ立

田舎より病人のせりて  
けちた者も多しをばりて  
たぬり紙面のさるやうに

時ありてふおのの弱も濯ぐ  
しるふれやとやわらるる

あうらうのともくもあう雨合時立

かかろえとらむとらぬげもん

かろりきとろふ志のよ小男竹

秋音古能侃小箱書水の月立

あうのまか紙のこふ板のるま

舞臺のういさめ付んぬめ

新あの子ささるやまのいお花竹

和漢り整成流る常立

大谷や寺の鹿の團あうりま

門まにろう白海人まにいおい山竹

あうかりてはるかままき

石松や流地をまのれい松柱て立

きうのきまをるきれ釣あけま

きうのきまをるきれ釣あけま

いつくへんきむいまいり今を竹

蒲団き一鉢荷の上立

あまよそあ流あまよそや煙去

飛山唐時るそそ草外竹

あまよそん枕ああるい儀立

あまの弱もあまの無性かまの取去

生れつくあまの神の白子え竹



うらやらのうらやら  
魂の糸うらめく魂乞食立  
人倫三句つき

此界の魂と送れる魂を  
文字をわたりて今世の

魂送歌の目こ  
死尸の祇を林よ木かたて立  
矢の三線の的場あちりて  
あつたひの矢を指ひ又  
なまそい付るあつた

魂をくわくわく抱ひまわぬ物  
あつたひの矢を指ひ又  
なまそい付るあつた

おこりりりり  
小屏風もたていのまらぬ  
繪ふいそりりるを水の糸氣吹

はげむ  
まのい又うらやらある山荘  
新道の松屋根こまらぬ  
魂の糸何やあつた

魂の糸何やあつた  
仙人をさきこまらぬ酒立  
まのい又うらやらある山荘  
そのこちひく樓上の月  
なまそい付るあつた

ついでに  
ついでに

物と申すはさるる事なむと立

惟いくて出づ

吾れ水子那たはるる泥の油の  
そまゝとさつとぬれむと立

一白んぬる

自眞もあつたつ酒は  
引退少成物とそやれ

車たや車屋町の美い立

あつた屋の字路いこるや  
又下町の町はそそ三おや

引山をさつとるはつ悦あ

引山限ていさ山坪とあ

と宣流あて若人なはつ

あふの再程成す

かゝると見よ腰のさし久立

宣流そそ死刀脈指のうらさ  
日ささぬ

小扈従と起る帯志て別あ

形見さふ二句娘す

かりん摺紙紙とりのれと

かゝるはちちの肌をさあや立

おとそきよあれは水あ

髪そつは俗れ月ん谷たり

のりさる時れ枝の地ああ立

おたどとつと坂ふあか

お親ちとところさけ神

ある親きる集のさ

あんのつと十八日の熟つり立

数字おくりしる

例 天のありきあるは火焼去  
多ありて見よはぬむと物に

あるのういさこし

おくれは結甚九折の 柳 同

おいよも風ふ破紙とある字も

柳の糸も名の もての 柳

三十六点 七十点

松江 維舟在判

おはありは器 器  
おはありは器 器  
おはありは器 器  
おはありは器 器

中二

おむる種あれはわわくお盤 湖吉

俗に

おくもくは愛のし急 季

おそおとまの名山際い 正五

おや火河はもありあ 春

おの月めくれはちよりあ 夏

おらるるもさうりる 郭公 五

おらるるもさうりる 郭公 五

おらるるもさうりる 郭公 五

お三のとまわり

おらるるもさうりる 郭公 五

おらるるもさうりる 郭公 五

おらるるもさうりる 郭公 五

牛上

我見てもたま久一地彦取立

子りニ久一も日さ也

何じとる縁の坊日成るも

付いりんふさつといふ

いつを命れとりわさきそ

武人よ三世の相とやえりふ立

足程あつくもひあふ

とまふそいつ暇候の店也

同さこころ

戒はやあつものまん

おかしきおつるあたる地とよ

戒やあつものまん

何あつこのかた杖を日

樹ぶ秋の月と秋中ふとめ立

糸のむくわら基等志す書

えいこひとめあつ新酒也

みるまらそそ料るお算立

尻からふ立ち西一もて

三分めけ

まのあつやりの唯猿也

山をたて山ふ岩屋小立

清瀧さく茶屋いそらく

清瀧さく茶屋いそらく

ちと休め再進坂ふり

息杖志あつつけ

荷付るよけて通る又車去

おろし

大津の乃れを記せよ世や

たのせりれおると同き

何は友角はなよ札の辻立

ま川国おからる銀子百枚

付ん

もあられん月を曇や

ん

肌を記すも命とさる

同き也

まげ色よあり風は木葉

肌をと落す時

かれく落めも忘わく

ん月秋

志やれ跡を邊の白骨

兼喰を乳牛賦とく

一里といふも又十町也

尺之れい校の本ら

むろく

外をれ終

名乃鞋と

付ん

海里の道り振舞

を

つれぬ

何首



風もよみなき夜後冬の一息立  
刻り牛馬もくぬ梅の匂去  
傘代合もくぬ花舞りり

此梅の冬さぬ物也

独法師の紙おつらん歌立  
初つと切くつて竹のう去

お白のうつさ也

か〜と修る此眼さし吟  
お白お小喧咳させお結めて立

跳のういさ也りろし

氣をきしに月の夜ありさ去

月う取結ひくは兼さぬ

花をさう澄む念ふに我らり吟

ろくま境目の垣の山吹立

花物花さるしひて竹まわり

水ゆらび舟もよきり夜泊道去

人倫さ〜合

この〜かひふか歌お何吟

まの母も我志むけくは花立

人倫さ〜合

舟さ〜よものいさ〜去

不慮も美氣とこれいゆ歌つ吟

三白つきて美時の花さるし

もろ〜あ〜まを〜は〜立

物さ〜は〜狼〜立

おやあめつれも世息おえ吟

こいつらう飯酒の碎れ立

酒三あ〜さ〜り碎もあ〜

常の忠をいふねん振去  
おるのういさ

死されし定を月のあつて吟  
おのういさ

入庫の扱使置きこしぬ立

出方の神子湯のさびれし去

やせしとあやうもあや

かまぬれ荆棘足つきて立

悪人目成冷こもりた去

登方こころ

もこぬ後花は誰取月吟

巻良手成老ぬてう紀立

おころのこころ

他家成つころに内いも去の去

それこの筆は釣り世推取吟

入この釣筆今やうそ

杖つ起る分切花は昔神河立

詠より杖つてもあつて

去まるとこふ光は瀧山灰 執筆

三十二点 七二

西武左判

才三

面白や花小村を月子風 正立

風のそ葉のそ吹くれ乃去 御去

風は田のあ知りりに似せ 季吟

千上

十二



孫氏引つれをまつゝぬれ  
並無おこしよ

少り神の袖ありまゝく懸籠ふま

少り神志也八百内いせぬらん

掛香おちくゝあかちかすもーし

是と志成し神紙又志

早老日字なりと面いゆ

鼻紙り柄し虫や包むらん立

成りる粟に磨き壺来れま

成月と丸溜の角らきじ

屋の新程を宝いあし立

秘世のしあるとまわりと有嫌

千金とまの一時盡いあれりま

から物持とよ咲桃の花

生並れ籠と柳乃をちれや立

あこしのころりろ

波の段をいひ池乃坊ま

不無の甲ふ古角をれり

花生ふ池の坊と付又古角

ころりろ

部りりろろふあ瓦の上立

くま灯籠掛りふを治地の内ま

鏡や紙紙ふ葉山の奥

見越ふあ歳のゆる木と柱て立

三ア有るは日あふまやう

川あふしろけ堀くくの町ま

武門やめくあ代族ぬらん

その役人乃来く庭化り立

祇園も殿のうへ樹も成なり去

木を植てこころあはれむを  
又は同じやうにらん若ん

徳穂う梅の枝をまゝに吹

三句と云う

あまの竹の子はばさむい並て立

後付も又は二句書も感うた

かたそへを疎し羽箒去

かたそへへの羽箒やゆや

あはれ

いふれあはれ鉄炮雀のけのこに吹

る張月ののりる下地うゑ立

右三句口書半の内は

川際子の秋もくれり七日去

さくんと庭より竹を牡丹吹

を牡丹志うらん

おれ並ぬ南面のむ壇光立

とやわがの庭の牡丹

花壇も同じをゆやまを

たむ紀の海に海人の系去

あふ去こ系は去も去物也

いとし海軍も波の敵計吹

とくやふ交りわめてむる立

神事大晒ちの親ふ入る去

け神さうあめぬあ和布也

又露の白々とさなをい元

冬さし合也

社ふ踏と親あつりけ吹

おのあはれも海に松原立

揚枝くそ記くけいむる去

荒の字さへ合

君のれと葉のくろも極る花吹  
標子とらりにわさし神垣立  
風ふいつち風ふ矢とく音遊去  
わさ葉前や百足ふよを吹  
鳥葉前さへ

ふつ記と杖おしとや海立  
月よりあつ砂布さきさく去  
寐えんやも借りち馬拍子吹  
二階住居でもかかろ妻立  
柵下小むと忘れとふ神行去  
所居  
風のわさふハ三線の声 吟  
ふとち教納んは場おれさき立

みりささともあうて海鳥登去  
風あつとつとつと切やに吹  
輪花の松中 花死色立  
海草や葉あおふらりむい去  
土鍋子より緩巻むと川 吟  
月出しやふハ星れ教あつ立  
花巻の南よりむい去  
花の字ちりく

川下のさる川洲海お波さき吹  
朝り後れ腔うるむを立  
川下はと針付さへ上白  
はふ別あつ

又へ俵湯かとさへいぬ煙去  
武蔵こもりにむせく腹さく吹

せくきたあま土佐紙あしり立  
ざれにたやうに文仗去  
猶もを氣きふ梨の遊戯吟  
益とゆつを富きる花立  
慈悲と社世人甚好むる去  
天下さましくとあうむる吟  
は果屋ふるさじに銀持て立  
今我ら那花より活斗去  
歩去り今この次戸の濁酒吟

花より酒あは甘ん

栄耀ふるりのあうふる立  
一白心なるおまをぬとふる  
るのかせと妹らゆけあし  
神去

関山三里思ひ 緋笠立吟

どろもやうのちきく流あし立

さる金の文此あしう緋笠立  
よそ流あふるさるる

儀者あしくは喧嘩を尾に去

関山あしう流をいり

兵法の才子多くあし棋あし吟

一本流の教さくは門立

月お熟うつれに射乃拵去

あしりもあやあ松あしん吟

太甲の同一あしあやうに三白  
めさるあしあしあしあし

立流に波も秋の色に立

からあふうと出をわ拵去

鯉よとされ釣了袖う吟

麦飯少くや独このむ立

後月

氣越の衣半少の朧を枕と去

昔よさらや白とあまの古初言吹

越下り何きの古初言目定

人目おの古糸記町也新立敷立

所たああ参りまみろ

去のこしりれ三本木立去

白他りもつていん去のこしりわの  
立三本木立去つてさかくおま

一かこの鞠場れ松を塔とく吹

か人の住一記も甲とせん立

外村の狸埋とれぬ玉生お去

を竹といふ竹何める忘吟

外舞り二帖大目お月を立

わくといわさぬ雪れ言暁去

わつきりの都和秘苑の松と吟

あまあくとりこむる若む立

あまのうらさこ

ひもいとむよりくやる丸の物去

あまあくとりひもいとむる日  
ささ成し

一書綱や味おもろん吟

息杖をつくきつてくは境立

大橋小橋かき籠いこ引去

おこりあ

東山花見の海さ碎志れく吟

はあけー東山さー合

しひらひらを夕へりまぬれ梅  
三十六巻六

梅盛互判

才四

花に葉散るぬきのふゆ  
式意うらに立後年物立  
おれ梅人いつかきつ大越く  
星のちりりりのお圃の雪  
八方の内りお風  
爪をるをる方に雪のちりり立  
風をけきたにぬ起り床去  
雪のふれくりに袖の雪

風のをけしきよの雪のふれ  
ちりちりうらに又は少くと

まらか

淡路を書お行よ目の書五  
おましまもきお計との開山忌去

冬ちりり

蠟燭とその回痛も鳴じ吟  
葬里の場へ洞の海とあり立  
式のおくらのみ書やこれ去

禅ちとつりある下るみく吟

燈の蠟燭立佛をさるれ  
尺取ちりり

尚しれくいつか破風の内立

何とやうな根ありくやふらり

祿事に勅使来くも武化法去

秋の老田あけけ 例聲中吟  
萩原やしも盛の用ひて立  
菊も落も指おのむ去  
秋おふ月社友と理近の音吟  
琴詩酒の才よりあはる時立  
秋い時むを暮 双古去  
臥ちえんとて物ふこよし吟  
一茶或神のまふにや立  
うよひいとまふあのをる去  
宿を九條の本目もる時吟  
本目味といつと味の本目が  
雪ささくへ 喰 寝乃声 立  
梅むくを風のそり来去

波う板のさぐりぬれ髪吟  
富士城離り境の方ふか立  
六根の飛障まらんが飛河去  
いふふいふと及生いけ吟  
ういこのころをせまやれ立  
せしや時あをを何あ所去  
ふまわりかよい何のうに吟  
あつちりあつちりまといふ  
字結ひてふたまきりあ  
いささか

引れをく内守つふ二立立  
人し急きくぬ耳塚の秋去  
矢数しーいさのあけやうそ吟  
麻毛やふひと花吹風立

魔<sup>ま</sup>毛<sup>け</sup>う<sup>う</sup>矢<sup>や</sup>敷<sup>し</sup>す<sup>す</sup> 是<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>後<sup>ご</sup>付<sup>け</sup>が  
箱<sup>はこ</sup>造<sup>ぞう</sup>う<sup>う</sup>ふ<sup>ふ</sup>芝<sup>しば</sup>居<sup>い</sup>よ<sup>よ</sup>つ<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>う<sup>う</sup>去<sup>こ</sup>

魔<sup>ま</sup>毛<sup>け</sup>打<sup>う</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>申<sup>まを</sup>荷<sup>に</sup>ひ<sup>ひ</sup>

川<sup>か</sup>の<sup>の</sup>む<sup>む</sup>り<sup>り</sup>や<sup>や</sup>祇<sup>ぎ</sup>室<sup>しつ</sup>領<sup>りやう</sup>内<sup>ない</sup> 呷<sup>あ</sup>  
旅<sup>りょ</sup>夷<sup>い</sup>と<sup>と</sup>三<sup>さん</sup>河<sup>が</sup>氏<sup>し</sup>子<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>て<sup>て</sup>立<sup>た</sup>

ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>絆<sup>は</sup>乃<sup>の</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>皮<sup>かわ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>る<sup>る</sup>去<sup>こ</sup>

む<sup>む</sup>を<sup>を</sup>立<sup>た</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>を<sup>を</sup>え<sup>え</sup>見<sup>み</sup>を<sup>を</sup>涼<sup>すず</sup>気<sup>き</sup>ん<sup>ん</sup>呷<sup>あ</sup>

祇<sup>ぎ</sup>室<sup>しつ</sup>を<sup>を</sup>よ<sup>よ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>き<sup>き</sup>か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>祇<sup>ぎ</sup>室<sup>しつ</sup>を<sup>を</sup>  
命<sup>いのち</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>大<sup>だい</sup>り<sup>り</sup>り<sup>り</sup>ち<sup>ち</sup>し<sup>し</sup>

禿<sup>かぶ</sup>小<sup>せう</sup>給<sup>じふ</sup>仕<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>索<sup>さく</sup>麵<sup>めん</sup> 立<sup>た</sup>

絆<sup>は</sup>よ<sup>よ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>め<sup>め</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>ん<sup>ん</sup>  
又<sup>また</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>見<sup>み</sup>代<sup>しろ</sup>給<sup>じふ</sup>仕<sup>し</sup>さ<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>や<sup>や</sup>  
よ<sup>よ</sup>く<sup>く</sup>そ<sup>そ</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>し<sup>し</sup>

々<sup>々</sup>の<sup>の</sup>星<sup>せい</sup>こ<sup>こ</sup>ち<sup>ち</sup>も<sup>も</sup>一<sup>いっ</sup>枚<sup>まい</sup>の<sup>の</sup>契<sup>せき</sup>ひ<sup>ひ</sup>去<sup>こ</sup>  
刻<sup>とき</sup>あ<sup>あ</sup>し<sup>し</sup>ふ<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>同<sup>どう</sup> 目<sup>め</sup>お<sup>お</sup>呷<sup>あ</sup>

呷<sup>あ</sup>中<sup>ちゆう</sup>ふ<sup>ふ</sup>秋<sup>あき</sup>の<sup>の</sup>心<sup>こころ</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>け<sup>け</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>え<sup>え</sup>立<sup>た</sup>

く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>形<sup>かたち</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>傳<sup>でん</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>を<sup>を</sup>記<sup>き</sup>去<sup>こ</sup>

月<sup>つき</sup>も<sup>も</sup>出<sup>で</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>生<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>節<sup>せつ</sup> 呷<sup>あ</sup>

何<sup>なに</sup>も<sup>も</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>とい<sup>い</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>人<sup>ひと</sup> 立<sup>た</sup>

さ<sup>さ</sup>つ<sup>つ</sup>ち<sup>ち</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>刀<sup>たう</sup>を<sup>を</sup>れ<sup>れ</sup>く<sup>く</sup>死<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>去<sup>こ</sup>

武<sup>ぶ</sup>家<sup>け</sup>よ<sup>よ</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>そ<sup>そ</sup>ち<sup>ち</sup>何<sup>なに</sup>も<sup>も</sup>呷<sup>あ</sup>

刀<sup>たう</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>つ<sup>つ</sup>け<sup>け</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>所<sup>ところ</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>再<sup>また</sup>往<sup>い</sup>成<sup>じやう</sup>

里<sup>さと</sup>太<sup>た</sup>の<sup>の</sup>持<sup>もち</sup>場<sup>ば</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>む<sup>む</sup>を<sup>を</sup>立<sup>た</sup>

大<sup>だい</sup>武<sup>ぶ</sup>家<sup>け</sup>よ<sup>よ</sup>そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>い<sup>い</sup>逸<sup>い</sup>物<sup>ぶつ</sup>所<sup>ところ</sup>  
そ<sup>そ</sup>の<sup>の</sup>つ<sup>つ</sup>い<sup>い</sup>三<sup>さん</sup>物<sup>ぶつ</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>く<sup>く</sup>  
は<sup>は</sup>然<sup>しか</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>白<sup>しろ</sup>や<sup>や</sup>く<sup>く</sup>

威<sup>い</sup>少<sup>せう</sup>の<sup>の</sup>衣<sup>い</sup>花<sup>はな</sup>を<sup>を</sup>も<sup>も</sup>落<sup>お</sup>め<sup>め</sup>る<sup>る</sup>去<sup>こ</sup>

け<sup>け</sup>さい<sup>さい</sup>ひ<sup>ひ</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>地<sup>ち</sup>名<sup>な</sup>也<sup>なり</sup>也<sup>なり</sup>呷<sup>あ</sup>

和<sup>わ</sup>当<sup>たう</sup>の<sup>の</sup>背<sup>せい</sup>物<sup>ぶつ</sup>針<sup>はり</sup>を<sup>を</sup>取<sup>と</sup>り<sup>り</sup>立<sup>た</sup>



ある乃再延

法とて祖父と祖母とありて去  
れりて久まればぬる<sup>ち</sup>懐<sup>ち</sup>吟  
<sup>カホ</sup>薫<sup>カホ</sup>りする<sup>カホ</sup>不<sup>カホ</sup>断<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>香<sup>カホ</sup>煙<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>立<sup>カホ</sup>  
<sup>カホ</sup>立<sup>カホ</sup>く<sup>カホ</sup>い<sup>カホ</sup>と<sup>カホ</sup>池<sup>カホ</sup>阜<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>香<sup>カホ</sup>貝<sup>カホ</sup>去<sup>カホ</sup>  
床<sup>カホ</sup>根<sup>カホ</sup>亦<sup>カホ</sup>去<sup>カホ</sup>れ<sup>カホ</sup>る<sup>カホ</sup>尚<sup>カホ</sup>好<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>月<sup>カホ</sup>吟<sup>カホ</sup>  
武<sup>カホ</sup>通<sup>カホ</sup>役<sup>カホ</sup>乃<sup>カホ</sup>去<sup>カホ</sup>矣<sup>カホ</sup>白<sup>カホ</sup>身<sup>カホ</sup>亦<sup>カホ</sup>入<sup>カホ</sup>立<sup>カホ</sup>  
魚<sup>カホ</sup>亦<sup>カホ</sup>と<sup>カホ</sup>玉<sup>カホ</sup>と<sup>カホ</sup>足<sup>カホ</sup>立<sup>カホ</sup>事<sup>カホ</sup>亦<sup>カホ</sup>ぬ<sup>カホ</sup>去<sup>カホ</sup>

同さし成り

卷

武<sup>カホ</sup>亦<sup>カホ</sup>こ<sup>カホ</sup>ゆる<sup>カホ</sup>波<sup>カホ</sup>が<sup>カホ</sup>あ<sup>カホ</sup>ま<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>吟<sup>カホ</sup>  
成<sup>カホ</sup>さ<sup>カホ</sup>ら<sup>カホ</sup>り<sup>カホ</sup>也<sup>カホ</sup>池<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>鏡<sup>カホ</sup>と<sup>カホ</sup>さ<sup>カホ</sup>え<sup>カホ</sup>ん<sup>カホ</sup>立<sup>カホ</sup>  
緋<sup>カホ</sup>笠<sup>カホ</sup>着<sup>カホ</sup>て<sup>カホ</sup>る<sup>カホ</sup>海<sup>カホ</sup>あ<sup>カホ</sup>つ<sup>カホ</sup>て<sup>カホ</sup>ら<sup>カホ</sup>ふ<sup>カホ</sup>去<sup>カホ</sup>  
武<sup>カホ</sup>亦<sup>カホ</sup>と<sup>カホ</sup>さ<sup>カホ</sup>つ<sup>カホ</sup>て<sup>カホ</sup>磨<sup>カホ</sup>む<sup>カホ</sup>人<sup>カホ</sup>取<sup>カホ</sup>亦<sup>カホ</sup>吟<sup>カホ</sup>

い<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>河<sup>カホ</sup>原<sup>カホ</sup>也<sup>カホ</sup>世<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>あ<sup>カホ</sup>ま<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>河<sup>カホ</sup>立<sup>カホ</sup>  
筑<sup>カホ</sup>根<sup>カホ</sup>山<sup>カホ</sup>ゆ<sup>カホ</sup>も<sup>カホ</sup>海<sup>カホ</sup>に<sup>カホ</sup>は<sup>カホ</sup>れ<sup>カホ</sup>難<sup>カホ</sup>亦<sup>カホ</sup>去<sup>カホ</sup>  
去<sup>カホ</sup>る<sup>カホ</sup>も<sup>カホ</sup>去<sup>カホ</sup>ら<sup>カホ</sup>ぬ<sup>カホ</sup>も<sup>カホ</sup>切<sup>カホ</sup>手<sup>カホ</sup>丸<sup>カホ</sup>深<sup>カホ</sup>吟<sup>カホ</sup>  
何<sup>カホ</sup>う<sup>カホ</sup>と<sup>カホ</sup>名<sup>カホ</sup>無<sup>カホ</sup>を<sup>カホ</sup>す<sup>カホ</sup>る<sup>カホ</sup>誰<sup>カホ</sup>を<sup>カホ</sup>立<sup>カホ</sup>  
ある<sup>カホ</sup>乃<sup>カホ</sup>再<sup>カホ</sup>延<sup>カホ</sup>也<sup>カホ</sup>

お<sup>カホ</sup>れ<sup>カホ</sup>た<sup>カホ</sup>た<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>能<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>れ<sup>カホ</sup>も<sup>カホ</sup>根<sup>カホ</sup>去<sup>カホ</sup>  
夜<sup>カホ</sup>も<sup>カホ</sup>取<sup>カホ</sup>つ<sup>カホ</sup>て<sup>カホ</sup>死<sup>カホ</sup>す<sup>カホ</sup>よ<sup>カホ</sup>り<sup>カホ</sup>死<sup>カホ</sup>す<sup>カホ</sup>吟<sup>カホ</sup>  
な<sup>カホ</sup>ら<sup>カホ</sup>に<sup>カホ</sup>夜<sup>カホ</sup>も<sup>カホ</sup>取<sup>カホ</sup>つ<sup>カホ</sup>て<sup>カホ</sup>死<sup>カホ</sup>す<sup>カホ</sup>吟<sup>カホ</sup>  
も<sup>カホ</sup>そ<sup>カホ</sup>知<sup>カホ</sup>ら<sup>カホ</sup>ぬ<sup>カホ</sup>吟<sup>カホ</sup>  
こ<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>可<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>こ<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>こ<sup>カホ</sup>と<sup>カホ</sup>指<sup>カホ</sup>打<sup>カホ</sup>立<sup>カホ</sup>  
程<sup>カホ</sup>ゆ<sup>カホ</sup>る<sup>カホ</sup>吟<sup>カホ</sup>

い<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>い<sup>カホ</sup>ひ<sup>カホ</sup>も<sup>カホ</sup>あ<sup>カホ</sup>ら<sup>カホ</sup>れ<sup>カホ</sup>難<sup>カホ</sup>亦<sup>カホ</sup>去<sup>カホ</sup>  
去<sup>カホ</sup>る<sup>カホ</sup>も<sup>カホ</sup>去<sup>カホ</sup>ら<sup>カホ</sup>ぬ<sup>カホ</sup>も<sup>カホ</sup>切<sup>カホ</sup>手<sup>カホ</sup>丸<sup>カホ</sup>深<sup>カホ</sup>吟<sup>カホ</sup>  
外<sup>カホ</sup>と<sup>カホ</sup>も<sup>カホ</sup>去<sup>カホ</sup>ら<sup>カホ</sup>ぬ<sup>カホ</sup>も<sup>カホ</sup>一<sup>カホ</sup>種<sup>カホ</sup>の<sup>カホ</sup>た<sup>カホ</sup>れ<sup>カホ</sup>附<sup>カホ</sup>立<sup>カホ</sup>

三あうまわれるる最の極去  
まよあやと祝る門はう吟  
よしのまよしつ傍繩をふ立  
冬ちうし法

おち月つとめらるるまははく去  
右の回し

風うして只寐るる極楽吟  
一豆の酒ふ百味もる物哉立

氣清き入の葉も何の去  
の文をよのめり習むる相  
はたあやむ

結  
現山みる橋の蓮ふる花の吟  
そらあぬれり里子ふる花立

そのうらなむ人偏とせれ  
柱物はかりてあ

つれそふ世常破りて去  
是非も難波乃海れあ吟  
飛たれいふといはぬ海立  
若めい合点ふる物つ去  
月ふとぬ地獄まはる吟  
師走の月夜されをく立

秋をあし  
雪の詠地人をしうを去  
地の字さし合

哉まの癖ての鶴さよあぬ吟  
みえいの命性まあつる立  
又乃起るの持さしやれ去

とみんのかは使ふは侍吟  
わんまのくもさるふ旧友立  
眼いままてしに宿る花のき  
れんいところやうるむら子撃

又十八点 七七

政也在判

才五

いけ初く花やうるむら子撃  
あひもつらうにそなくむ友立  
月並い大く鳥魁の香の香  
曆らうらうとまやま詩去  
宋より曆抄を始

和月の新や梅の火を燈立  
い川曉やうるむら子撃  
あつらうと破くは寐覚道去  
内服しをいあやうなる酒  
はを記ふ

琴を枕と丸久お節り立  
夜をかちう  
氣むつらう冬れおれり家吟  
あびくそむえは流河の水去

清龍の橋ふ家立おれをい立  
淡城よわ龍をかくく美秋吟  
松茸をきししは高り去

捨茶おれは月らうは仕合立  
子の字さう合やふ

十一

十三



極なうら山吹のちきれても日さ  
かぶむ春根をこするは産能吟  
岩くも成洗ふやさうらうら浪去  
とまじりてのるなほの面より立  
長屏の腰をやくに若生く吟  
月小松あり物門のうへ去  
琵琶はききさうら車おとすの立  
かゝるまをまも風流まきぬ吟  
いやくと三曲こよりもや布去  
悲しく  
此の尻さうらおんぬつれ立  
煙霧乃舞當むく花の陰に  
せれたまひ氣うりま惜む也去

溢の穴のそけい天ふく雲あ立  
風り戸れぬと戸ぬるやう吟  
縁上人へ老戸あつら月り去  
のそくおとこさうらうら  
ゆりこいぢうらあ所の家あ立  
ふ昔うり秋ぬけて並や吟  
おこし分列あへ

せいせきうらうら園の日あがり去  
ひちく風の一筋やう涼立  
縄うら小神を古判りすら吟  
ゆきあき真いね小居隠く去  
抱めもあや旅人乃宿立  
何十訪燕のき荷もつくやん吟  
旅の宿あは荷のきといはこゆ

大なるをば殿より遠くも去

人備おこし但居而の殿り  
此の宿又さし合ふ

ゆふと暮る方よりあつて立

あつてのいさ成り居るもあつて

夢切の氣のゆふあつて人々

夢切に後後同し事い

任るいふが変化はくふ歌も去

氣あつてあつて又時也

笑懐極めく世城のれぬら立

あつて淋さうかと月あつて

心まらぬ

虫とささくれ独吟の勢も

なまらぬ独り日さ也

隙もたれせよと風秋の書も立

おこしつゝん

十病氣の毎の日暮生の内吟

病氣の毎日と云つてきほし

細しの見え舞妓 郭公去

病氣あり見えと付る句一  
くはしむ一旬のれぬととも

付あつ病見えとるれとくも

櫓の香や危のめいりく立

袖垣も昔風も巻られく

袖垣昔風苗風と云ふも

詠地もさびしむりは團ハ立去

三つたて庭のゆつて

譜もる是位もさしむの音立

あつての歌にけりさあつて

あつての歌にけりさあつて

秋よ洞よきゆしやうさ立  
か様とむる多れ才よ今く吟  
あるのこりしんそかく  
あはれや日さき也

月よ月を阿れのとよ去  
是社にけしむる名とる流立

舞の火に東風吹ふ音吟  
名十日を越さく紀定さそ去

風籟の跡もと尋るそむ立  
一礼すそそ物子おれを奇吟

敷字おこし  
色後流まき 出流る歌去

親よるも変致れとき危は立  
あ物子二白の居あしおこし

はむちあや久ー尺且那吟

四三のるりしんそかくひし  
あそあそ青の友の去詩去  
人倫さー合し

美い時分のわか学向所立

去詩の学向おもはむ字  
されいおしー日さき也がの字  
もさー合

あそそ登お初んち初をもあそ吟  
あはれ  
あそあそ風俗いそ去

山ん村守くそんやう  
のうりかしく甘白いあそ去  
四三のるりしんそかく

綱もそもあめ菜(さ)るれり立

升石万石市町の米吟  
お流や出る大船月の舟去

木のつくりより通ふ秋風立  
夢啼て陰るの絵おも思ひ吟  
あましたるれを休む御殿去  
大原町ちと家あつる沢ん立

大文字名おえも言ひ  
ちり

鶯冠井のあふを嘆ふ山吟

鶯冠井のあといひさう  
大原のゆと中入い付さけ

秋めも狂情いふふつて去  
とむらもまもやくととと立

とむらうとむらうとと

永記日成をひることもあけし  
俄り讀書口もやふらう 執筆

四十二七六  
今徳在判

肩入を云下巻

才六

氣さるるあふり空方の花の比  
世とのとくふ 他語の登香吟

出初い先え日と筆さそとく 聖  
出さめてこくしを届けする立

あまのあふれを礼老礼を吟  
あまのあまめをたれ老の  
子成

家のおとあしひいさう人去  
月あむほを礼ふ及あさ立

千秋あをまや流ひめら吟  
あつとく確し子を埋入さで去

いあむ袖や志ろい帷子立



素顔スツカハきつやもなる湯あり吟

させそしするさし合

やあふつても道あぬ人去

おほも取らりてやかくん立

あるのうらさ也

る兒く志二目せれぬ吟

二白の字味け

野たらしきやあれ旅迎きて去

吹風ふ才の巻ききくらぢ立

布拾フツうら出イや秋の定吟

生綿キワタとくまイ留ル何れけ去

枝の乃ノ小麻コウの魚イサじイ立

洲田スダの志シとしておゆる月歌吟

乙姫とや今もそれなれつ去

くいんんといちちといちちの種立

ゆめ及人いそ形尺をの

薫カウはいくくれれといすす吟

ああままりり外外の茶屋チャいい去

るる名名二条通ニのそんソよヨ立

ふふ方方はは花ハ名ナををぬぬちち去

古塚コおお目メとといい草クサの泣ナけけ去

とてい

去去桂ケイくくよりより何ナニの何ナニ月ツキ立

あるの撮り極む古

何の何月日さ也

籠カゴ山ヤマ乃ノ取トりりおおををくく吟

試シらぬらぬ池イケよりより鳥トリのむむ去

乱風いよ坂履く吹をうり立  
栲波の影うし梅葉の味冷

兼見梅

石の啼れ月赤子に梅の口去

火のひしあたる細厨子の昔立

かよふ風涼しい程どいよし吟

うぎらふやういよふ祢唱去

俄面やとら野中此一つ立

息きつて来りわ土陽と忍吟

亂のをけい足かわらぬ物踏去

糸む城りうとら乱柳立

居あちう

そよ風をわらわらうとら吟

あるよ乱枝うも程こやせ

飛ぶとよやぬいあをうらや

うこ又物の影ひもさ冷乃

なま事となまぬると花い咲

と祢うひ都るい時と祢うあ

いしうらう中を飛くと何の

冷うし地詠けさる落物い

る中を飛いりんるあふあ地

け一笑やうのあはもあかてい

あつを井を園が辱され去

別こそ書も愛ふいそいおえ立

記こそこれい我う秋の物吟

数こそう紙蕉くさいおられ去

護子のあれあこわか地立

あるの紙蕉うるあなけい

ある(甲)アアしは白あなけい

月あふゆも祖文あいま計吟

并下

北





手紙紫ふらふへいおひえ  
美物心啓日とせ也

酒城あゝめ阿ふやせん去  
例とて文行月雪雁とめて立  
背ふ氣骨成打し中人吟  
美同もとて社狗もあぢ去  
心あふおに多く 拵スレガ子銀立  
現在の一文字さし合し  
風おと大晦日もを付ぬ吟  
氷にのきをさしち打兼程母去  
川舟もよそ歩去はさき忍立  
何ん太良もや来もむつ月吟  
見えさし延ユラシなるさん花詩そ去  
やも氣うまきとや餅梅 執筆

四十八 七口

志願在判

廿七

東山花むやだごの花の時 李時

いひさす寸 意むらやたんこの  
煙心の時かくる交し奔白ハ  
いひあももあり去まうもむ  
いふ列あふ

湯豆府内さそと暖あつた 柳喜

付心まうれ

平四のふり胸えまね長束で 正立

早んささういさ也

秋一よまてぬよきの望あぬ 吟

冷さうり春さうり田つきん

山いささし麻えくまけいを隣去  
あめぬら

月こぼれやうふ宮の月影立  
いさかひの目もたれあし

あぢのるれもいひかた今  
のつを物と子影も打去

足袋履を履後の山影れ三前立  
居あらし

文のはありと縄もゆるあし

後よ旅のやうなり足袋い  
但足袋履に縄もるともや  
後付也

昔信する所理職内五司来去

池のころをひろくとあふ立  
築山の細いゆるも船を好吟

けり木の影紫麻を去

と船庭小風を吹めぬ立

おこしあふあし  
さそ目や波乃あふこの影

唱々さし合

一体とせん荷をおりけ今去

足袋の食やあつあつする立

け末前うれむ木の本もろあし

れとさうふ山の松茸去

あまも又あひふこや夕夜立

大津島の後あ志つし

あやむ履結つしはあし去

在不在履入れりあむ方立

親子けり春魔よいさるん  
やまらひ花ふ小神うゆる  
不律義鴨の何ぐ何梅立  
は生影ひときくおまた  
仙壇ハ終ぬえり此は  
山も何と記中堂此中  
七社と木を立立し  
ちれや苗家子とや  
柴ふせふ友何り  
ほ一橋り  
芥子ふ  
破捨り  
あか  
とも

雲の香氣ふ  
厚き  
心  
又も  
さ  
お

裁成  
多む  
京も  
月  
月  
園の  
ま

ねろ茶とつまを何さそへ  
まゆこよよは書いそのとて去

如りうりなり日さく  
松子親とて見持らうに立

まじくぬ中あふ能も何や  
云界く肩のすむ為紛去

三  
あふた月ふえすぬま季立  
毎秋の執筆秋風を以

ねろちぎのさあん茶のまき幕去  
まんさああるのういさ也

みれをむ胸ごうく  
みとこり形えの何たたり

はらるまむのさむ心去  
味とてつた日おれ根性立

うた猿眼いつらんまいて  
今をまよ何を流船のさそ去

さぐりにさがる糸の買袖立  
樹小をふせすれためを柳む

つしのさく目つてハ移る去  
影志ぶぬおハ金糸やむとん立

ちんとなさき金  
織冠のなとり後くさくれ

子縮けももれたてて去  
子のゆきさし合

まよは秋も極俄億の勸を立  
剣僧のいついもとて無めん

七六



風下の門のさく掛<sup>カケ</sup>玉  
つらば余法の夕暮<sup>タタ</sup>戸<sup>カド</sup>立  
みどりのやうなお花<sup>ハナ</sup>もい何<sup>ナニ</sup>吹  
けりやあやうく久<sup>キウ</sup>た小人<sup>コノヒト</sup>詠<sup>エイ</sup>去  
まふいんしぬけ<sup>ヌケ</sup>ふもく<sup>モク</sup>枝<sup>エ</sup>立  
ひつらとよのそらんる<sup>ソランル</sup>花<sup>ハナ</sup>吹  
手のよままりて<sup>マ</sup>あ物<sup>モノ</sup>が<sup>ガ</sup>去  
陰<sup>カゲ</sup>陽<sup>ヨウ</sup>師<sup>シ</sup>核<sup>カク</sup>比<sup>ヒ</sup>の<sup>ノ</sup>は<sup>ハ</sup>も<sup>モ</sup>立  
は<sup>ハ</sup>付<sup>ツ</sup>心<sup>ココロ</sup>い<sup>イ</sup>は<sup>ハ</sup>ま<sup>マ</sup>や<sup>ヤ</sup>ま<sup>マ</sup>し<sup>シ</sup>  
初<sup>ハツメ</sup>念<sup>ネン</sup>も<sup>モ</sup>唾<sup>ツボ</sup>ま<sup>マ</sup>き<sup>キ</sup>も<sup>モ</sup>く<sup>ク</sup>い<sup>イ</sup>吟<sup>イン</sup>  
津<sup>ツ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>一<sup>イチ</sup>對<sup>タイ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハナ</sup>人<sup>ヒト</sup>詠<sup>エイ</sup>去  
又<sup>マタ</sup>好<sup>コト</sup>む<sup>ム</sup>本<sup>ホン</sup>よ<sup>ヨ</sup>ま<sup>マ</sup>ど<sup>ド</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>る<sup>ル</sup>ま<sup>マ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>立  
ある<sup>アル</sup>お<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>ば<sup>バ</sup>白<sup>シロ</sup>意<sup>イ</sup>成<sup>セイ</sup>る<sup>ル</sup>

名<sup>ナ</sup>の<sup>ノ</sup>詠<sup>エイ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ア</sup>お<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>ば<sup>バ</sup>白<sup>シロ</sup>意<sup>イ</sup>成<sup>セイ</sup>る<sup>ル</sup>  
あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>い<sup>イ</sup>回<sup>クワ</sup>ま<sup>マ</sup>時<sup>ジ</sup>人<sup>ヒト</sup>任<sup>ニ</sup>在<sup>ゼ</sup>去  
情<sup>セイ</sup>あ<sup>ア</sup>く<sup>ク</sup>凡<sup>ボウ</sup>花<sup>ハナ</sup>葛<sup>カ</sup>花<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>采<sup>サイ</sup>り<sup>リ</sup>立  
日<sup>ニチ</sup>が<sup>ガ</sup>ふ<sup>フ</sup>ら<sup>ラ</sup>れ<sup>レ</sup>る<sup>ル</sup>中<sup>ナカ</sup>の<sup>ノ</sup>志<sup>シ</sup>さ<sup>サ</sup>吹  
あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>い<sup>イ</sup>回<sup>クワ</sup>ま<sup>マ</sup>時<sup>ジ</sup>人<sup>ヒト</sup>任<sup>ニ</sup>在<sup>ゼ</sup>去  
を<sup>オ</sup>後<sup>ゴ</sup>の<sup>ノ</sup>ふ<sup>フ</sup>秋<sup>アキ</sup>守<sup>モリ</sup>の<sup>ノ</sup>海<sup>ウミ</sup>さ<sup>サ</sup>立  
風<sup>カゼ</sup>お<sup>オ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>泪<sup>ナミダ</sup>が<sup>ガ</sup>こ<sup>コ</sup>ろ<sup>ロ</sup>ん<sup>ン</sup>い<sup>イ</sup>ま<sup>マ</sup>ん<sup>ン</sup>吹  
あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>い<sup>イ</sup>回<sup>クワ</sup>ま<sup>マ</sup>時<sup>ジ</sup>人<sup>ヒト</sup>任<sup>ニ</sup>在<sup>ゼ</sup>去  
三<sup>サン</sup>線<sup>セン</sup>の<sup>ノ</sup>ち<sup>チ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>い<sup>イ</sup>む<sup>ム</sup>さ<sup>サ</sup>や<sup>ヤ</sup>立  
く<sup>ク</sup>ま<sup>マ</sup>ん<sup>ン</sup>て<sup>テ</sup>あ<sup>ア</sup>れ<sup>レ</sup>い<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>永<sup>エイ</sup>死<sup>シ</sup>日<sup>ニチ</sup>吹  
ま<sup>マ</sup>や<sup>ヤ</sup>に<sup>ニ</sup>子<sup>コ</sup>曰<sup>イハレ</sup>学<sup>ガク</sup>子<sup>シ</sup>く<sup>ク</sup>よ<sup>ヨ</sup>去  
儒<sup>ニウ</sup>道<sup>ダウ</sup>の<sup>ノ</sup>心<sup>シン</sup>を<sup>ヲ</sup>た<sup>タ</sup>め<sup>メ</sup>に<sup>ニ</sup>し<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>立  
國<sup>クニ</sup>を<sup>ヲ</sup>誣<sup>ウ</sup>る<sup>ル</sup>者<sup>モノ</sup>乃<sup>ハ</sup>く<sup>ク</sup>ど<sup>ド</sup>ら<sup>ラ</sup>を<sup>ヲ</sup>つ<sup>ツ</sup>く<sup>ク</sup>立

并下  
四二

前夜中ひと小菊を頼む  
 風吹くつ文箱とげん  
 考候うらぐちつれあひぬれ風立  
 園六月を 所入候 吹  
 ちや東白くさういふま  
 天下久敷の村子いさむ也  
 又百ふあるよしあつたふ  
矢敷中の人又百ふ限  
さあぐてい付  
 一正陽くるまかす家  
 の果田小休める男志やま  
 半ふるふ日中ふあれ 楓  
 長付甲一 同長七  
 播列地洛住  
 是誰

中八

ちよむいひとあふり入  
季竹冬白情  
 引あつたのちこれ色  
 白炭をいさふさぬお道  
 候すくふれ香び管の内  
 下しりり物まうする立  
 月をとりて電の灰せり去  
 ちね服字也ちや暈石吹  
 ち志どお捨ちく登いで立  
 ちち木仏ふささむへち去  
 ちまにけ柳ちを祝世者ち

とふとひちひちもくふふあゝ  
乱舞する林下ふふと廿一社  
嵐のくる冬日のめしうせ  
谷のあつれい足も白くさけ  
飯を餌少して菓を釣針  
飢僅なる世をも涙を造す  
菴の余は小報草水取  
おこりのふらり  
生垣乃又赤やむむあまふん  
きとま

きとま手ぬきやー葉酒  
けり白目おもむやういん

辰亥の二日二日月立  
祇禊のれり試る草

大股あももももまもも  
けえー庭の菊れりり  
今迄の物としてあふ初葉よ

風りうまの入秋の初葉を  
けり大りこひひり

けりれりり文月の廿日  
けつれやまの矢田のは地

鼎障の大和とろくは世  
敵をまびつをくま号のり

まかひり世帯れ煙風また  
下あさる雨や七条河原

きとまのふをまふふあ  
むもあふあふあふあ

下  
き

門前より是とすらいまぬを  
よのそ物うき風あき風立  
葬れの海の水おとけく去

皇帝の烟村も葬れゆく

ふらん境のこきいまされぬ

はたけのにはた今云日本境乃  
まうそれの草を比ふあま  
したにひてまこり鼻  
さくらさるる紙面のを  
てはるたあは又此の

一糸の流れをちるまうに立  
りこまきこやぎやうしき去  
まつふまこねをこふ歌公吟  
西の尺旦乃杖むりり立

糸くは使わやうはあえ去  
扇蓮かの銀鏡を乞吟  
呉服屋の手代をすは余立

人倫おこり

こご子ともがはうらむる去  
すあすらさう人倫とさ合  
老武老の毛もそとあはら吟

人倫おこり

刀紙杖よりつれくさ場立  
うね難下涙を帯る冬月去  
あそも何里の家を多た吟  
三岩の紅紫の陰もいさあふ立  
男麻、亦もこいもど唱去

眞福ちまると中<sup>ツネ</sup>の後の夢<sup>ユメ</sup>は  
不<sup>ツ</sup>背<sup>セ</sup>月の玉のまん丸<sup>マニワ</sup>の中<sup>ナカ</sup>に立  
君とまゝの海<sup>ウミ</sup>に飛<sup>トビ</sup>入<sup>イ</sup>ん去  
櫛<sup>シ</sup>とま<sup>マ</sup>りてとふ羽<sup>ハ</sup>うら<sup>ラ</sup>んへふ吟  
櫛<sup>シ</sup>ハ川の物也海<sup>ウミ</sup>まてらる  
伊<sup>イ</sup>佐<sup>サ</sup>和<sup>ワ</sup>川<sup>カハ</sup>いさこ<sup>コ</sup>て名<sup>ナ</sup>を記<sup>キ</sup>立  
おと<sup>ト</sup>ら<sup>ラ</sup>服<sup>フク</sup>でも甲<sup>カ</sup>州<sup>シュ</sup>後の玉<sup>タマ</sup>丸<sup>ワ</sup>去  
約<sup>ヤク</sup>ふま<sup>マ</sup>くのら<sup>ラ</sup>氏<sup>シ</sup>より月<sup>ツキ</sup>を吟  
十<sup>ジュ</sup>宗<sup>シュ</sup>さ<sup>サ</sup>らも夷<sup>イ</sup>ハ島<sup>シマ</sup>むそ立  
あま<sup>アマ</sup>く<sup>ク</sup>もま<sup>マ</sup>りてと<sup>ト</sup>物<sup>モノ</sup>は去  
もと何<sup>ナニ</sup>人<sup>ヒト</sup>う<sup>ウ</sup>か<sup>カ</sup>てう<sup>ウ</sup>れめ吟  
人<sup>ヒト</sup>偏<sup>ヘン</sup>お<sup>オ</sup>こ<sup>コ</sup>—  
お<sup>オ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>つ<sup>ツ</sup>た<sup>タ</sup>お<sup>オ</sup>生<sup>シ</sup>と月<sup>ツキ</sup>やある立

ま<sup>マ</sup>ま<sup>マ</sup>世<sup>セ</sup>を<sup>ヲ</sup>れ<sup>レ</sup>い<sup>イ</sup>う<sup>ウ</sup>へ<sup>ヘ</sup>の<sup>ノ</sup>結<sup>ムス</sup>去  
じ<sup>ジ</sup>ふ<sup>フ</sup>成<sup>セイ</sup>程<sup>テイ</sup>の<sup>ノ</sup>文<sup>モン</sup>字<sup>ジ</sup>を<sup>ヲ</sup>ふ<sup>フ</sup>吟  
平<sup>ヘイ</sup>砂<sup>サ</sup>の<sup>ノ</sup>重<sup>シ</sup>ね<sup>ネ</sup>や<sup>ヤ</sup>を<sup>ヲ</sup>母<sup>ハハ</sup>り<sup>リ</sup>え<sup>エ</sup>立  
と<sup>ト</sup>ら<sup>ラ</sup>海<sup>ウミ</sup>を<sup>ヲ</sup>庭<sup>ニワ</sup>の<sup>ノ</sup>所<sup>トコロ</sup>に<sup>ニ</sup>芝<sup>シ</sup>植<sup>カ</sup>て<sup>テ</sup>去  
お<sup>オ</sup>の<sup>ノ</sup>朝<sup>アサ</sup>日<sup>ヒ</sup>れ<sup>レ</sup>さ<sup>サ</sup>け<sup>ケ</sup>て<sup>テ</sup>日<sup>ヒ</sup>さ<sup>サ</sup>り<sup>リ</sup>吟  
お<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>ま<sup>マ</sup>も<sup>モ</sup>海<sup>ウミ</sup>出<sup>デ</sup>ま<sup>マ</sup>る<sup>ル</sup>お<sup>オ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>お<sup>オ</sup>立  
談<sup>タン</sup>儀<sup>ギ</sup>と<sup>ト</sup>ま<sup>マ</sup>り<sup>リ</sup>い<sup>イ</sup>や<sup>ヤ</sup>か<sup>カ</sup>と<sup>ト</sup>様<sup>サマ</sup>去  
我家<sup>ウチ</sup>の<sup>ノ</sup>仏<sup>ブツ</sup>堂<sup>ドウ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>と<sup>ト</sup>吟  
新<sup>シン</sup>し<sup>シ</sup>報<sup>ホウ</sup>候<sup>コウ</sup>少<sup>シ</sup>う<sup>ウ</sup>拵<sup>テ</sup>と<sup>ト</sup>や<sup>ヤ</sup>立  
万<sup>マン</sup>々<sup>ゾク</sup>物<sup>モノ</sup>む<sup>ム</sup>つ<sup>ツ</sup>う<sup>ウ</sup>か<sup>カ</sup>り<sup>リ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>ま<sup>マ</sup>ふ<sup>フ</sup>去  
洲<sup>シュ</sup>小<sup>コ</sup>町<sup>チヨウ</sup>の<sup>ノ</sup>跡<sup>アト</sup>を<sup>ヲ</sup>仕<sup>シ</sup>出<sup>デ</sup>ん<sup>ン</sup>去<sup>ク</sup>  
火<sup>ヒ</sup>と<sup>ト</sup>り<sup>リ</sup>て<sup>テ</sup>朝<sup>アサ</sup>ふ<sup>フ</sup>り<sup>リ</sup>ま<sup>マ</sup>揚<sup>アゲ</sup>灯<sup>トウ</sup>籠<sup>ロウ</sup>立

舟<sup>フネ</sup>下<sup>カ</sup>り<sup>リ</sup>て<sup>テ</sup>朝<sup>アサ</sup>ふ<sup>フ</sup>り<sup>リ</sup>ま<sup>マ</sup>揚<sup>アゲ</sup>灯<sup>トウ</sup>籠<sup>ロウ</sup>立

又何ぐる月いもそつとを云去

あきの字あるい

いと詩尾上よめ白いるさあひ

若いそげと枝よ去山立

新海人まが赤齒のくるさふ去

日ハ昼時ふいご休へーし

何をするといふ事れも草子つ立

ふりし病やくつあづめさる去

秋意いんつよ兒ふまける慕ひ

旧時のやうにはまろけりめり立

浪路まもまきりれいのかき去

比良の八幡月を記此

ころ根おいさしきぬ言はる白

刻りききき花の山城去

さけらきそ花も縁をきとられ

梅のつらや詩をきふれ立

まふいぬさひの卯青更つ去

秋食いむぬ海の神も

くれるる別時べつじの念仏秋淋あき立

たんまるとやまのちりく去

初彫くおとゆる物とる左身ひだりみ立

小端もこはたやしくはるはる立

管よりおの火の氣を流し去

夏火のなつちのち日さき也

又月雲とそ去人乃やこあら

風さの林こやし興おこし洗あらの身み立

秋下



づんかうと記して持む岩陰り立  
尊の子るれいあこるる去  
父々の若れお茶味ひく  
まきぬゆりの白髪立  
仏壇の抹香くさむ神子去  
何れも菩提候りあつらん  
蟻の塔くむと堂をいと立  
及一筋日備むれり去  
本居うがいのむるふ道也  
上のるれゆりも也  
深羽織も裾やうらあし立  
日備の袴こるむつ  
るふのうらやましくも備り去

さびる花山茂茂この春風吹  
け白ふくも冬の花ざり立  
禁ハ六田柳目をさし去  
しぬさす我を葉内をば去  
真さすしるるん屋何し立  
葉の底も見す花の月乃去  
とやあられはるるのくれ  
あるいゆも早と記れちれ  
氣のにも志こけい先おあ去  
秋の日因くよある秋人去  
枕のあををさる男女就ひ  
索麵ききひ古来稀也立  
市とふそ地は建仁寺におお去



竹の ぼく

秋の意気は海真加あさる

きりぎりすも海美自在を際立

志ひもに冥加あれと秋の意気  
あるは—ある再吟もあつて

世に伝うる言はるのしと去

玉の流の流るは欲も流ぬき竹

病中まへも算盤枕立

玉の流の—何事と云病中あつて

食物もりけて秤ハ腰本小去

あるのうらさ也

武もやとふらとらる者居竹

任職のは乃蛇ささどる立

食物もるは—

以作小道ちや月の明あつ去

三 者のうらさ

垢離の行い意も首ふやと也吟

上の句れ也ゆゑのうらさ

秋風を—芸菰の之立

減り中初んをさ塔ささ去

或る月より口切とせん吟

竹垣と性能はふゆひと立

用意のころおろし

秋動ふりり杞の木柱去

志も死る梅傍とらふちふ竹

古塚すれと竹の新田立

あつととる—去の草と去

風蘇を先と—合々妙茶竹

秋爰ふるに依の先を露り立  
枕おまゝに梅津のゆりし去  
花ちるを月の極もついでふ吟  
一目ふくくく秋の山くく立  
ころ木所ううに河家お晴て去  
涼この床ふ火の何く記考吟  
園る解おくくも中我もれつ立

何とてさひいれ

敷屋をつつそそ一ねりそん去  
うお世ははは世は世は世は世は  
又文字のいふ  
乃おお意の園ひらそ立  
さき記付の中一五りに記地記去  
園記地同くこし

性来ふるもささたる寒竹 吟  
はく杖のそそもこぬを栗立  
少人ら何されんうと鳴け 去  
肩お撲珠の積と成りそり吟  
ある乃中結ちるんおんてく  
と鳴虫の蛙しそりんういそ知  
我いぬし秋をきくして花  
りつてん

ある乃時也

むの若かでもあし特賣打去  
つゝくこととてはねりのうら  
うやう乃所付服  
さそぬ人來といとふも鳴吟  
さそぬ人といあるんんんん  
去風う熱杖くさやこら立  
ゆらこく

難<sup>ナシ</sup>と云くされを堪<sup>タ</sup>忍<sup>ニ</sup> 去  
死<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>つ<sup>シ</sup>去<sup>ク</sup>の<sup>ノ</sup>は<sup>ハ</sup>先<sup>ニ</sup>て<sup>シ</sup> 吟  
心<sup>ココロ</sup>を<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>れ<sup>ル</sup>さ<sup>シ</sup>し

絵<sup>エ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>じ<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ん  
絵<sup>エ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>じ<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ん

人<sup>ヒト</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>じ<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ん  
人<sup>ヒト</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>ま</sup>あ<sup>ら</sup>じ<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>ん

く<sup>ク</sup>ら<sup>ク</sup>い<sup>イ</sup>な<sup>ナ</sup>下<sup>カ</sup>屋<sup>ヤ</sup>御<sup>ミ</sup>さ<sup>サ</sup>り<sup>リ</sup> 吟  
く<sup>ク</sup>ら<sup>ク</sup>い<sup>イ</sup>な<sup>ナ</sup>下<sup>カ</sup>屋<sup>ヤ</sup>御<sup>ミ</sup>さ<sup>サ</sup>り<sup>リ</sup> 吟

障<sup>サマ</sup>の<sup>ノ</sup>も<sup>モ</sup>我<sup>ガ</sup>庭<sup>ニ</sup>下<sup>カ</sup>り<sup>リ</sup> 吟  
障<sup>サマ</sup>の<sup>ノ</sup>も<sup>モ</sup>我<sup>ガ</sup>庭<sup>ニ</sup>下<sup>カ</sup>り<sup>リ</sup> 吟

帆<sup>フネ</sup>子<sup>コ</sup>ま<sup>ま</sup>え<sup>え</sup>ハ<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>な<sup>な</sup>書<sup>カ</sup>き<sup>キ</sup> 立  
帆<sup>フネ</sup>子<sup>コ</sup>ま<sup>ま</sup>え<sup>え</sup>ハ<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>な<sup>な</sup>書<sup>カ</sup>き<sup>キ</sup> 立

月<sup>ツキ</sup>見<sup>ミ</sup>え<sup>え</sup>む<sup>む</sup>志<sup>シ</sup>ん<sup>ン</sup> 吟  
月<sup>ツキ</sup>見<sup>ミ</sup>え<sup>え</sup>む<sup>む</sup>志<sup>シ</sup>ん<sup>ン</sup> 吟

涼<sup>スズシ</sup>き<sup>キ</sup>も<sup>モ</sup>暑<sup>アツ</sup>い<sup>イ</sup>も<sup>モ</sup> 吟  
涼<sup>スズシ</sup>き<sup>キ</sup>も<sup>モ</sup>暑<sup>アツ</sup>い<sup>イ</sup>も<sup>モ</sup> 吟

也<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>申<sup>マ</sup>り<sup>リ</sup>見<sup>ミ</sup>え<sup>え</sup>む<sup>む</sup>志<sup>シ</sup>ん<sup>ン</sup> 吟  
也<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>申<sup>マ</sup>り<sup>リ</sup>見<sup>ミ</sup>え<sup>え</sup>む<sup>む</sup>志<sup>シ</sup>ん<sup>ン</sup> 吟

く<sup>ク</sup>木<sup>キ</sup>お<sup>お</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>れ<sup>れ</sup>む<sup>む</sup>お<sup>お</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>れ<sup>れ</sup> 吟  
く<sup>ク</sup>木<sup>キ</sup>お<sup>お</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>れ<sup>れ</sup>む<sup>む</sup>お<sup>お</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>れ<sup>れ</sup> 吟

吟<sup>イナ</sup>松<sup>マツ</sup>葉<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup> 吟  
吟<sup>イナ</sup>松<sup>マツ</sup>葉<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup> 吟

吟<sup>イナ</sup>松<sup>マツ</sup>葉<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup> 吟  
吟<sup>イナ</sup>松<sup>マツ</sup>葉<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup> 吟

吟<sup>イナ</sup>松<sup>マツ</sup>葉<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup> 吟  
吟<sup>イナ</sup>松<sup>マツ</sup>葉<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup> 吟

吟<sup>イナ</sup>松<sup>マツ</sup>葉<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup> 吟  
吟<sup>イナ</sup>松<sup>マツ</sup>葉<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup> 吟

吟<sup>イナ</sup>松<sup>マツ</sup>葉<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup> 吟  
吟<sup>イナ</sup>松<sup>マツ</sup>葉<sup>ハ</sup>も<sup>も</sup> 吟

をきりしきけ 鬘の娘の寝今 執事  
花ふちるうひりた

三十二 七四

仁口左判

カト

ふい物のつら物也花のぬ 李吟  
碎の碎さあ 註 ちりぬる 五  
あふ神さ 註 の ねひ 註 へ ぬ  
まの 註 や 註 へ 註 へ 註 へ  
大古院 註 を 註 けて 註 板 註 へ 註 へ  
あふの能の 註 へ 註 へ 註 へ 註 へ  
あふ 註 へ 註 へ 註 へ 註 へ

菓子多る月とありふか

菓子多る月とありふか  
菓子多る月とありふか  
菓子多る月とありふか

つら 註 へ 註 へ 註 へ 註 へ

つら 註 へ 註 へ 註 へ 註 へ  
つら 註 へ 註 へ 註 へ 註 へ

菊 註 の 註 へ 註 へ 註 へ 註 へ

や 註 ぬ 註 の 註 へ 註 へ 註 へ 註 へ

蚊 註 の 註 へ 註 へ 註 へ 註 へ

菜摘 註 ぬ 註 へ 註 へ 註 へ 註 へ

こと

いさまりてかお海のかたを形立  
春半の向むまび縮香春  
長化の叔並日比さぬ清ふ吟  
何く介をそあところ硯立  
旅の及つて記おきりて眠春  
ふるもあやしく向の空月吟  
昔の祭のあふま常たぬれ立  
かゝる籠地もかりのやどむ春  
古ちまもやあがれ在来ふ吟  
中モ下度うする園東の雨代立  
武打をいづれれを知けて春  
門の外まうそ志よこむむせ  
ありのの晴こし

日敷強て丸甘立の野うさ立  
竹を便りりれどつ釣る春  
垣やとんて秋野ふ破やり吟  
そ縁の墓と石をカむ立  
道より念仏して月小春  
十取の鏡女とやまそけん吟  
何ゆめりやれやお祖父の杖ボ立  
衣子さむし取中めさめら春  
朝茶湯茶湯はるぬいびり吟  
三四吟しそ一おしせん立  
還るも志がしそと田舎永春  
志りおおか  
休もつれねいそやげはり吟

ぬを糸糸物と詠後（米）立  
は春の能き久しく思（米）喜  
あるの思（米）

阿彌まゑる情の二日破吟  
酔あ（米）こ（米）こ（米）

まぐさあきてわらは後立  
二日破（米）枕あきて（米）こ（米）こ（米）とや  
ふ（米）ま（米）れ（米）こ（米）こ（米）

何とやういふ人か（米）いふ人か（米）  
帷子（米）は（米）く（米）と（米）ど（米）ぬ（米）と（米）吟  
着て（米）より（米）ね（米）の（米）お（米）れ（米）や（米）や（米）立  
月を（米）も（米）め（米）て（米）い（米）ふ（米）と（米）り（米）く（米）喜

花の（米）本（米）あ（米）ゆ（米）ん（米）よ（米）な（米）花（米）び（米）吟

あ（米）ら（米）ふ（米）の（米）喜（米）喜（米）こ（米）こ（米）立  
た（米）り（米）と（米）ん（米）い（米）ふ（米）の（米）喜（米）喜（米）  
刻（米）も（米）も（米）ま（米）を（米）初（米）の（米）吟  
秋（米）態（米）ふ（米）り（米）あ（米）わ（米）内（米）の（米）喜（米）喜（米）立  
牛（米）の（米）つ（米）れ（米）の（米）り（米）て（米）喜（米）喜（米）

か（米）ら（米）あ（米）る（米）り（米）秋（米）態（米）付（米）吟

は（米）ら（米）と（米）本（米）賣（米）を（米）つ（米）小（米）流（米）吟  
い（米）の（米）川（米）や（米）丹（米）波（米）あ（米）り（米）立  
て（米）る（米）月（米）の（米）り（米）秋（米）態（米）老（米）の（米）山（米）立（米）喜  
地（米）花（米）す（米）ら（米）と（米）ち（米）か（米）の（米）方（米）れ（米）と（米）吟  
や（米）も（米）と（米）聲（米）ん（米）こ（米）も（米）を（米）詩（米）の（米）に（米）立  
茶（米）あ（米）り（米）て（米）花（米）あ（米）と（米）り（米）喜  
と（米）り（米）く（米）

表の各本<sup>ナラ</sup>見るとや<sup>ア</sup>あ<sup>ル</sup>ん<sup>ハ</sup>吟  
ん<sup>ハ</sup>ま<sup>レ</sup>れ<sup>ル</sup>ん<sup>ハ</sup>

志<sup>ス</sup>き<sup>キ</sup>物<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>見<sup>ル</sup>ま<sup>つ</sup>く<sup>ら</sup>立  
同<sup>シ</sup>い<sup>し</sup>れ<sup>ぬ</sup>人<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>り<sup>ぬ</sup>常<sup>ニ</sup>其<sup>レ</sup>志<sup>ス</sup>  
旅<sup>シ</sup>籠<sup>ル</sup>を<sup>ハ</sup>志<sup>ス</sup>す<sup>は</sup>者<sup>ヲ</sup>を<sup>ハ</sup>り<sup>て</sup>吟

仕<sup>テ</sup>舞<sup>ハ</sup>る<sup>る</sup>お<sup>し</sup>く<sup>し</sup>又<sup>ハ</sup>お<sup>し</sup>く<sup>し</sup>  
格<sup>ツ</sup>め<sup>も</sup>海<sup>ノ</sup>り<sup>よ</sup>る<sup>世</sup>を<sup>ハ</sup>立<sup>下</sup>り<sup>立</sup>

こ<sup>の</sup>う<sup>ら</sup>み<sup>め</sup>よ<sup>う</sup>の<sup>ハ</sup>方<sup>ハ</sup>神<sup>ト</sup>志<sup>ス</sup>  
至<sup>ル</sup>魔<sup>ノ</sup>い<sup>ど</sup>ふ<sup>人</sup>稱<sup>ス</sup>あ<sup>れ</sup>や<sup>吟</sup>

お<sup>し</sup>く<sup>し</sup>く<sup>し</sup>く<sup>し</sup>  
け<sup>を</sup>越<sup>リ</sup>け<sup>り</sup>灯<sup>ノ</sup>の<sup>影</sup>立<sup>立</sup>

あ<sup>の</sup>ほ<sup>ろ</sup>こ<sup>ろ</sup>や<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>  
さ<sup>し</sup>り<sup>や</sup>と<sup>門</sup>的<sup>な</sup>る<sup>く</sup>見<sup>送</sup>り<sup>志</sup>  
う<sup>し</sup>ろ<sup>す</sup>る<sup>よ</sup>う<sup>に</sup>記<sup>し</sup>も<sup>あ</sup>い<sup>吟</sup>  
さ<sup>し</sup>り<sup>や</sup>と<sup>う</sup>ら<sup>ぬ</sup>る<sup>志</sup>く<sup>吟</sup>

み<sup>の</sup>神<sup>と</sup>人<sup>中</sup>あ<sup>れ</sup>い<sup>れ</sup>と<sup>い</sup>ぬ<sup>立</sup>  
引<sup>い</sup>ち<sup>の</sup>智<sup>恵</sup>を<sup>ハ</sup>け<sup>て</sup>付<sup>き</sup>志<sup>ス</sup>

あ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>う<sup>え</sup>う<sup>に</sup>生<sup>れ</sup>た<sup>娘</sup>い<sup>れ</sup>吟  
よ<sup>う</sup>さ<sup>れ</sup>れ<sup>そ</sup>も<sup>い</sup>ん<sup>ど</sup>の<sup>口</sup>立<sup>立</sup>

け<sup>い</sup>ち<sup>や</sup>なる<sup>ゆ</sup>い<sup>ん</sup>と<sup>推</sup>け<sup>り</sup>志<sup>ス</sup>  
お<sup>し</sup>く<sup>し</sup>く<sup>し</sup>く<sup>し</sup>の<sup>振</sup>旦<sup>吟</sup>

お<sup>し</sup>く<sup>し</sup>く<sup>し</sup>く<sup>し</sup>も<sup>花</sup>月<sup>お</sup>志<sup>ス</sup>  
信<sup>道</sup>志<sup>ス</sup>を<sup>ハ</sup>撰<sup>ぬ</sup>よ<sup>い</sup>ま<sup>く</sup>志<sup>ス</sup>

ん<sup>ハ</sup>ま<sup>れ</sup>れ<sup>ル</sup>ん<sup>ハ</sup>  
そ<sup>の</sup>よ<sup>め</sup>い<sup>の</sup>兵<sup>衛</sup>を<sup>ハ</sup>つ<sup>く</sup>志<sup>ス</sup>  
さ<sup>る</sup>め<sup>こ</sup>う<sup>う</sup>ん<sup>ハ</sup>ま<sup>れ</sup>れ<sup>ル</sup>ん<sup>ハ</sup>

根<sup>條</sup>分<sup>り</sup>祇<sup>園</sup>を<sup>ハ</sup>志<sup>ス</sup>  
誰<sup>カ</sup>世<sup>より</sup>推<sup>し</sup>て<sup>志</sup>す<sup>志</sup>

福<sup>を</sup>な<sup>し</sup>と<sup>志</sup>す<sup>志</sup>よ<sup>う</sup>と<sup>志</sup>す<sup>志</sup>ぬ<sup>吟</sup>

布衣の袖をばし可<sup>ホ</sup>志<sup>イ</sup>立  
忍<sup>ニ</sup>び<sup>シ</sup>忍<sup>ス</sup>る<sup>ハ</sup>信<sup>ニ</sup>を<sup>シ</sup>りてゆ<sup>ク</sup>去  
拭<sup>ク</sup>手<sup>ク</sup>く<sup>シ</sup>後<sup>カ</sup>者<sup>カ</sup>か<sup>キ</sup>き<sup>キ</sup>ふ<sup>キ</sup>え<sup>キ</sup>り<sup>キ</sup>ひ<sup>キ</sup>  
祝<sup>ヒ</sup>ひ<sup>ノ</sup>砌<sup>ノ</sup>何<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ひ<sup>ス</sup>立  
酒<sup>ヲ</sup>狂<sup>セ</sup>を<sup>シ</sup>き<sup>キ</sup>ん<sup>ト</sup>持<sup>テ</sup>送<sup>ル</sup>め<sup>キ</sup>去  
む<sup>ク</sup>久<sup>シ</sup>し<sup>ク</sup>い<sup>ハ</sup>ひ<sup>ス</sup>死<sup>ニ</sup>よ<sup>リ</sup>不<sup>レ</sup>行<sup>ハ</sup>儀<sup>ト</sup>也  
恨<sup>ム</sup>う<sup>ラ</sup>ま<sup>ヒ</sup>す<sup>ル</sup>の<sup>モ</sup>年<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>去<sup>ル</sup>相<sup>ヲ</sup>立  
さ<sup>キ</sup>ん<sup>ふ</sup>す<sup>ら</sup>さ<sup>き</sup>合<sup>し</sup>  
飢<sup>饑</sup>饉<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>比<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>お<sup>じ</sup>り<sup>し</sup>去  
秋<sup>ノ</sup>半<sup>ヲ</sup>ふ<sup>ら</sup>く<sup>て</sup>挽<sup>子</sup>ふ<sup>鳥</sup>も<sup>鳥</sup>也<sup>也</sup>  
風<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>き<sup>キ</sup>く<sup>吹</sup>所<sup>ヲ</sup>も<sup>づ</sup>れ<sup>立</sup>  
秋<sup>ノ</sup>附<sup>ル</sup>ぬ<sup>る</sup>海<sup>ノ</sup>末<sup>ヲ</sup>も<sup>く</sup>ま<sup>口</sup>去  
氷<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>初<sup>ル</sup>り<sup>と</sup>初<sup>ル</sup>く<sup>ら</sup>比<sup>也</sup>也

あ<sup>の</sup>あ<sup>の</sup>の<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>も<sup>鼻</sup>を<sup>ぬ</sup>り<sup>立</sup>  
げ<sup>ん</sup>ぐ<sup>う</sup>鳥<sup>橋</sup>ふ<sup>つ</sup>ふ<sup>し</sup>去  
さ<sup>ら</sup>お<sup>い</sup>え<sup>と</sup>と<sup>い</sup>ひ<sup>ぬ</sup>儀<sup>也</sup>也<sup>也</sup>  
何<sup>レ</sup>も<sup>レ</sup>せ<sup>て</sup>も<sup>律</sup>み<sup>さ</sup>と<sup>は</sup>立<sup>立</sup>  
き<sup>を</sup>る<sup>簡</sup>火<sup>司</sup>心<sup>す</sup>る<sup>花</sup>遣<sup>ふ</sup>去  
と<sup>の</sup>紙<sup>お</sup>紙<sup>も</sup>の<sup>之</sup>紙<sup>等</sup>  
合<sup>五</sup>十<sup>九</sup>五<sup>河</sup>也<sup>八</sup>

判者  
一雪

追加

三音<sup>の</sup>花<sup>の</sup>花<sup>は</sup>鏡<sup>也</sup>  
若<sup>し</sup>川<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>ふ<sup>も</sup>の<sup>か</sup>く<sup>も</sup>と  
云<sup>き</sup>ま<sup>の</sup>の<sup>條</sup>也<sup>也</sup>  
季<sup>吟</sup>



天下一也 山崎の文 五五

天下一に後... 七

梓弓 其目お金の魔を以て

天下一の矢敷い友... 七

い... 七

... 七

者... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

... 七

引え戻ぬるふくどの秋去  
北原まよふ北人の絶望を  
先ん推しまくりこの家立  
一文字詠言は惜しく  
うたぎらしてとどめ東い先結去  
消のまきし合  
拙者もとやよめぬと又吟  
外うかれ藤との物事の目撃に立  
外へ一歌さほつは涙の去  
引見人お路お侍を石俵さよ吟  
くらもにわしともも拙者立  
右筆のよめ侍おあつた去  
丸くしともあつたねら吟  
おこしとらう

月も雲つ常の心のやうとあり立  
きうぬほつは命令と露よ去  
右口ある時日おまうやうにい  
せぬるやい  
引代のお少も茶の香物よ吟  
いんよやくむおおくれぬ去立  
あやもせつと紙およお取お去  
去るハ嵐の何よ侍やよ吟  
方におお泉かきもたれば瑞立  
去る者ありん

引くは且歌の座裏ら尋る去  
後儀きく福ふ孝履やまらん吟  
結譲者しそふちん志うぬ立  
者おこめ  
肉體をすまあい人ふひまき去



目の新い長端見茶ふ御うり立  
 新造く新と告るる丸  
 いそぐき別ふ勢格を  
 様ゆくりさぬが  
 物さふ風情とさふおさう  
 りさすん毎秋このあさ  
 川さうまんむさふ河と  
 相まられていおあこむれ  
 病とといわれも  
 攻さうりてあやれ  
 氣ふさや浮世遊れ  
 旧の住居や  
 新造やくらぬ

菊城さうりて  
 月お行はし  
 ちりり  
 山ふ  
 高  
 茶代  
 今何川  
 位牌  
 引  
 彼  
 花  
 花  
 花

川の森まひがらに小舟でも立  
刻の上猶らうさめぬ一し  
あゝの海の沖に立よる淋が  
ちりく死んで子をなふ立  
刻志す川流をくわく果ふ  
死すゝあゝ法あゝの片

付書上十一内七三

貞怒立刺

昭和十三年五月十五日校合了  
治子写



